

学校の共通目標

授業作り	重点	・どの教科においても、一単位時間の「学習の流れ」を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする	中間評価	・「学習の流れ」の提示により、生徒が見通しをもって学習を行うことができるようになった。	最終評価
		・学習や行動のルールを校内で明確にし、生徒にわかるように示していく。		・学習や行動のルールを校内で明確にしたことにより、どの学年も、生徒が落ち着いて授業に取り組める環境が整ってきた。	

教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）➡	最終評価（2月）
国語	<p>調全体表〔基礎・活用〕から、活用は目標値と同程度であったが、基礎はそれを下回っている。</p> <p>調〔観点別〕で目標値と同程度であったものは、1学年が「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」、2学年が「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」であった。</p> <p>調〔観点別〕で、1年生が「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」、2年生が「言語についての知識・理解・技能」が下回っていた。</p>	<p>・入学段階での、日本語の習得、漢字の習得が十分でない生徒がいるため、各観点で目標値を下回っている。第一に漢字の習得が課題である。</p> <p>漢字、語句の理解を前提として、読解力を育成すること、自らの考えを綴る文章作成力を育成していくことが第二の課題である。</p> <p>一方、読書への意欲を示す生徒がおり、全体の読書意欲の喚起を図りたい。</p>	<p>・日本語の習得については、国際学級と連携して継続的に指導にあたる。</p> <p>・基礎的な漢字の読み書きを習得させるために、漢字の読み・書き学習の時間を設け、取り組ませる。長期休み明けに漢字コンテストを行う。</p> <p>・毎時間の内容で、さまざまな文種の文章を読むこと、課題文、感想文、手紙文等、目的に応じて書くことに取り組ませる。</p>	<p>東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(2学年)より、都正答率と比較したとき「読む」が3.6%低く、「思考・判断・表現」「技能」は、ほぼ同程度、「知識・理解」は2.1%高いとの結果であった。教科書教材文の読解学習をさらに進める一方読書意欲の喚起を高めていくことで全体の学力を引き上げることが必要である。</p> <p>また、新宿区学力定着度調査(3学年)より、全国の数値に比して低い正答率は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」で、それぞれ9.1、3.4、11.0%低い。「読む能力」「知識・理解・技能」は5.0、1.0%高い。学習への意欲を高め、話し合いや作文など効果的に取り組ませていく必要がある。四分位分布からみたとき、AB層50.8%、CD層49.1%とほぼ二分している。今後、下位層の底上げが必要である。</p> <p>生徒による授業評価では、90%が高評価をつけていた。</p>	
社会	<p>調すべての項目において、目標値を下回っている。</p> <p>調〔観点別〕で「読み解く力」に関する内容については、下回っている。</p> <p>学提出物や宿題など、出された課題に十分に取組むことができず、内容も文字数やテーマの設定など定められた条件で文書を書くことできない様子が見られる。</p>	<p>・学習の習慣化や家庭学習の取組みなど、学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>・図や資料を用いた読み取る能力、文書や言葉に表す表現力を養えるようにする。</p>	<p>・基礎・基本の定着を図るため、毎授業の初めに前回の内容を振り返る活動を取入れる。</p> <p>・ワークを活用し、学習内容の振り返りを行う。</p> <p>・宿題や課題に計画的に取り組ませる、学習習慣の定着を目指す。</p>	<p>東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(2学年)より、都正答率と比較したとき「技能」は、わずかに下回ったが、「思考・判断・表現」「知識・理解」は上回っているとの結果であった。これは、前時の内容確認を行うこととワークによる振り返りを行ってきたからだと考えられる。教科書の表やグラフを中心に資料の読み取りの機会を増やしていく。</p> <p>また、新宿区学力定着度調査(3学年)より、全国の数値に比して正答率は、全体的に下回っていた。なかでも資料活用の技能が目標値を大きく下回っている。これまで、地図帳やグラフの読み取りなどの指導を行ってきたが、取組みがまだ十分でないことが分かった。</p> <p>今後は、全学年を通じて教科書の表やグラフを中心に資料の読み取りの機会を増やしていく。</p> <p>生徒による授業評価では、95%前後が高評価を付けていた。</p>	

数学	<p>調〔観点別〕で2年生の「数学的な技能」が目標値を上回っている。</p> <p>調〔観点別〕「関心・意欲・態度」「知識理解」「見方・考え方」は目標値を下回っている。</p> <p>調〔領域〕で、「数と式」「図形の内容」は目標値を上回っている。</p> <p>調〔領域〕で、「関数の内容」で目標値を下回っている。</p> <p>調3学年は、全観点および全領域で、目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識や技能についての十分な力をつけることが課題である。 特に関数については、きめ細かい指導で理解を深めることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、習熟度別少人数授業で一人一人の能力に応じた学習を進め、基礎的な知識、技能の習得につなげる。 毎時間、復習小テスト、単元ごとの確認テストを実施し、学習内容の定着を図る。 宿題を定期的に課すことで、学習の習慣化、基礎基本の定着を図る。 	<p>東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(2学年)では、都正答率と比較したとき「思考・判断・表現」が3.4%、「知識・理解」が3.0%低く、「技能」は3.0%高いという結果であった。計算力がついてきて、基礎的な技能の習得に力を入れた成果といえる。今後は、文章題や関数・図形などの領域で、主体的に考え理解する力をつける授業および、根拠を説明する問題を増やしていく。</p> <p>また、新宿区学力定着度調査(3学年)では、全国の数値に比しての正答率は、「数と式」「関数」の領域ではほぼ同程度、「図形」と「資料の活用」の領域で下回っている。基礎的な技能の習得に力を入れた成果ができてきているので、今後は図をかいたり実際に資料を整理したりという数学的な活動を増やしていく。</p> <p>生徒による授業評価では、95%以上が高評価を付けていた。</p>	
理科	<p>調〔観点別〕では、すべての観点が目標値を下回っている。</p> <p>調〔観点別〕「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」が大きく下回っている。</p> <p>学考察をまとめる活動で提出物の内容を見ると、結果をわかりやすく表現することが不得手である生徒が多くみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や技能の定着が不十分で、発展的な学習に結び付いていない。 自ら課題を設定し、解決に導くことができる生徒が少ない。 実験結果を考察する力や、資料から情報を整理して文章にまとめる力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を目指し、単元ごとに小テストを行う。また、ワークを活用し、学習内容を振り返る時間を設ける。 実験を行う授業では、結果の予想やまとめを丁寧に行い、目的をもって実験ができる環境を整える。 理解が十分でない生徒への補習授業を単元の終わりごとに行う。 	<p>東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(2学年)から、都平均と比べ、「思考・判断・表現」が約3%、「技能」が約2%低く、特に読み取る力と、思考して問題解決する力が不足していることが判明した。</p> <p>実験の結果を考察する時間を十分にとり、話し合い活動を取り入れることで、深く考えさせる学習を行っていく。</p> <p>また、実験方法をデジタル教科書の映像で提示することで、目的をもって実験を行うことや、実験操作のつまずきの解消につながった。</p> <p>基礎・基本の定着を図るため、小テストや宿題(ワーク)を計画的に行うと共に、理解がまだ十分でない生徒への補習授業を行っていく。</p> <p>生徒による授業評価では、95%以上が高評価を付けていた。</p>	
英語	<p>調〔観点別〕で、2学年の「関心・意欲・態度」は目標値を上回っている。</p> <p>調〔観点別〕で、2年生の「表現する力」目標値を下回っている。特に、3文英作文など個々の表現力が問われる領域は、大きく下回っている。</p> <p>調3学年で教科の内容の正答率は目標値を上回っているが、〔観点別〕「読み解く力」に関する内容では目標値を下回っている。</p> <p>調〔観点別〕の「表現」では、目標値を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的事項の定着が不十分である。 学習の習慣化、宿題への取り組みに課題がある。 英語に対する苦手意識をもっている生徒が多い。 特に書くことについては、文言や言葉に表す表現力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業を行う中で、一人一人の発音チェックや生徒同士が助け合いながら課題に取り組みせる機会を多く作り、基礎的・基本的事項の定着を図る。 毎回宿題を出し、学習の習慣を図る。 授業の流れを示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 2、3学期初めにスペリングコンテストを行い、基本的な単語のつづりの習得につなげる。 単元が終わるごとに単元テストを行い、学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査(3学年)では、新宿区の平均値より5ポイント弱低い、全国より3ポイント高い。特に「書く」領域での正答率が低めであった。また、全国学力・学習状況調査(3学年)より、東京都の平均値は3ポイント下回っているが、全国平均値とほぼ同等であった。全体的に記述式のものに対する無回答率が高かったため、授業や課題等で、英文で表現する機会を多く取り入れ、その添削も行っていく。さらに語順トレーニング等のワークを活用し、英文の正確さも上げていく。 東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(2学年)から、東京都の平均値を上回っており、特に表現の力は良い結果となった。これまでの指導の成果が表れていると捉え、今後も取り組みを継続する。 生徒による授業評価では、95%以上が高評価を付けていた。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。